

科目名		学年	
ネットワーク組織論: Theory of Network Organizations		2K	
教員名		伊藤孝夫: Takao ITO	
単位	授業時間	科目区分	授業形態
2	100分×15回	選択	講義・後期
授業概要	グラフ理論の基本をはじめ、ネットワーク組織と系列との比較研究を行い、ネットワーク組織の定性分析とともに、企業組織の問題を定量化するグラフ理論とフリーマンモデルを講義する。		
到達目標		評価方法	
①ネットワーク組織の概要を説明できる。②ネットワーク組織の計量分析をすることができる③ネットワーク組織論を応用することができる		①中間試験(35%)、②期末試験(35%)、③課題レポート(15%)、④自学自習によるレポート(15%)によって評価する。	
学習・教育目標		(C)②	JABEE基準1(2)
			(d)-(1)
授 業 計 画	回	項 目	内 容
	第1	基礎知識	ネットワーク組織の概要を説明する。
	第2	組織研究	組織研究の最新動向(組織エコロジー理論、制度学派理論)
	第3	組織研究	組織研究の最新動向(資源依存理論、取引費用経済学)
	第4	組織研究	組織研究の最新動向(ネットワーク組織論)
	第5	セントラリティ	フリーマンモデルの概念と測定
	第6	セントラリティ	フリーマンモデルの測定:直径、半径、周辺等
	第7	セントラリティ	固有値、情報、SNW分析
	第8	中心と密度分析	密度の計算と分析
	第9	バランス分析	有限バランスと β
	第10	派閥の問題	派閥の定義とその計算
	第11	相互作用の測定	DEMATELと相互作用の測定
	第12	ターミナルの容量	ターミナルの容量と事例分析
	第13	有効規模と効率	エゴの概念と有効規模の算出
	第14	レポート作成	学んだことの概要、興味を持ったこと、応用として考えられること、調べたこと等について報告書を作成する。
第15	まとめ	学習事項全体のまとめを行う。また授業アンケートを行う。	
自学自習の内容		レポートを課す。	
関連科目		経営組織論	
教科書		プリントを配布する	
参考書		Social Network Analysis (S.Wasserman & K. Faust, Cambridge)	
授業評価・理解度		最終回に授業評価アンケートを行う。	
副担当教員			
備考		授業後にアンケート調査を実施する。	